

水のあいだ

環境を調節する縁側



雨の日に、窓の外を見る。

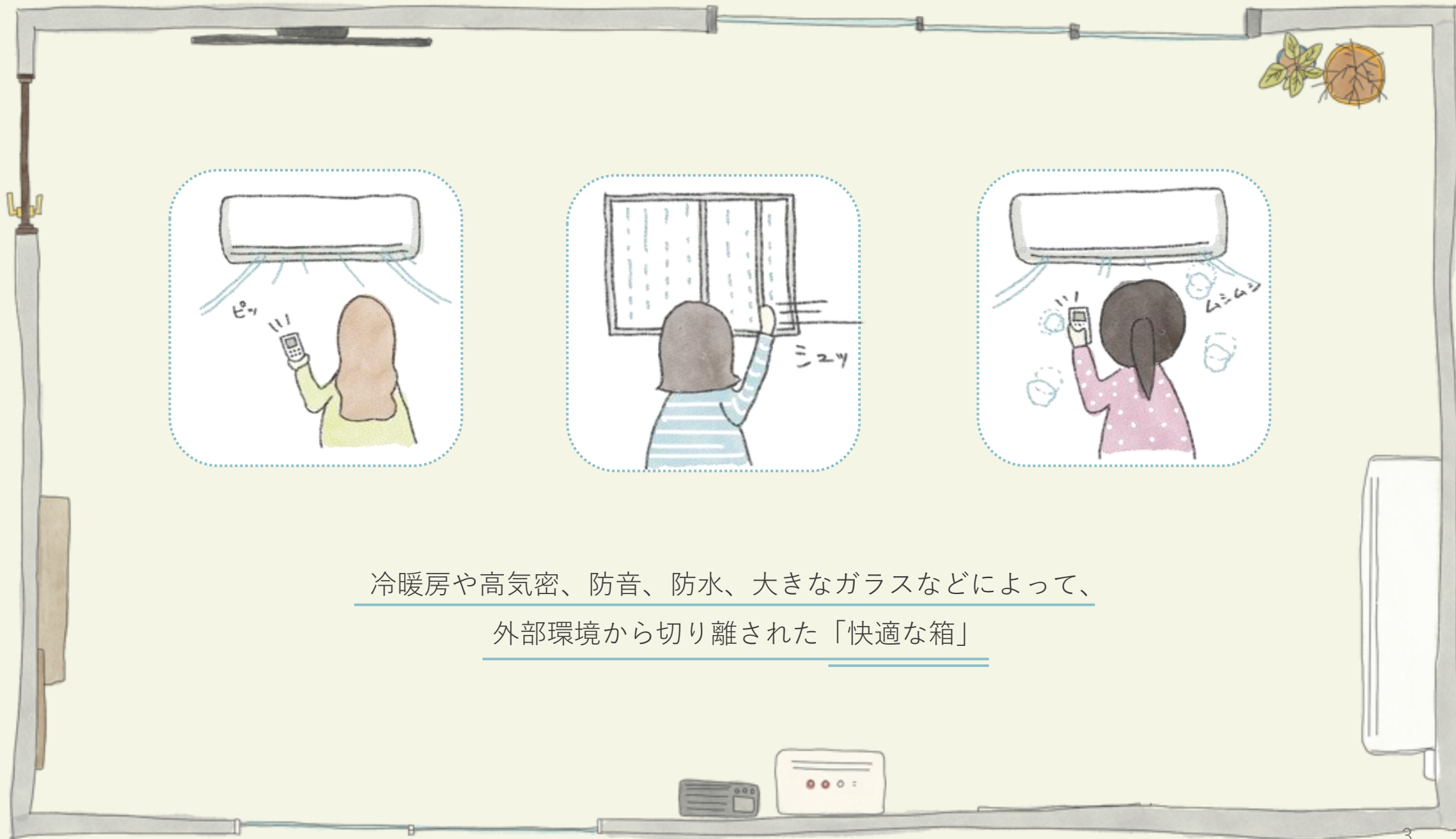
いつも見ている景色なのに、
少しだけ違って見える。



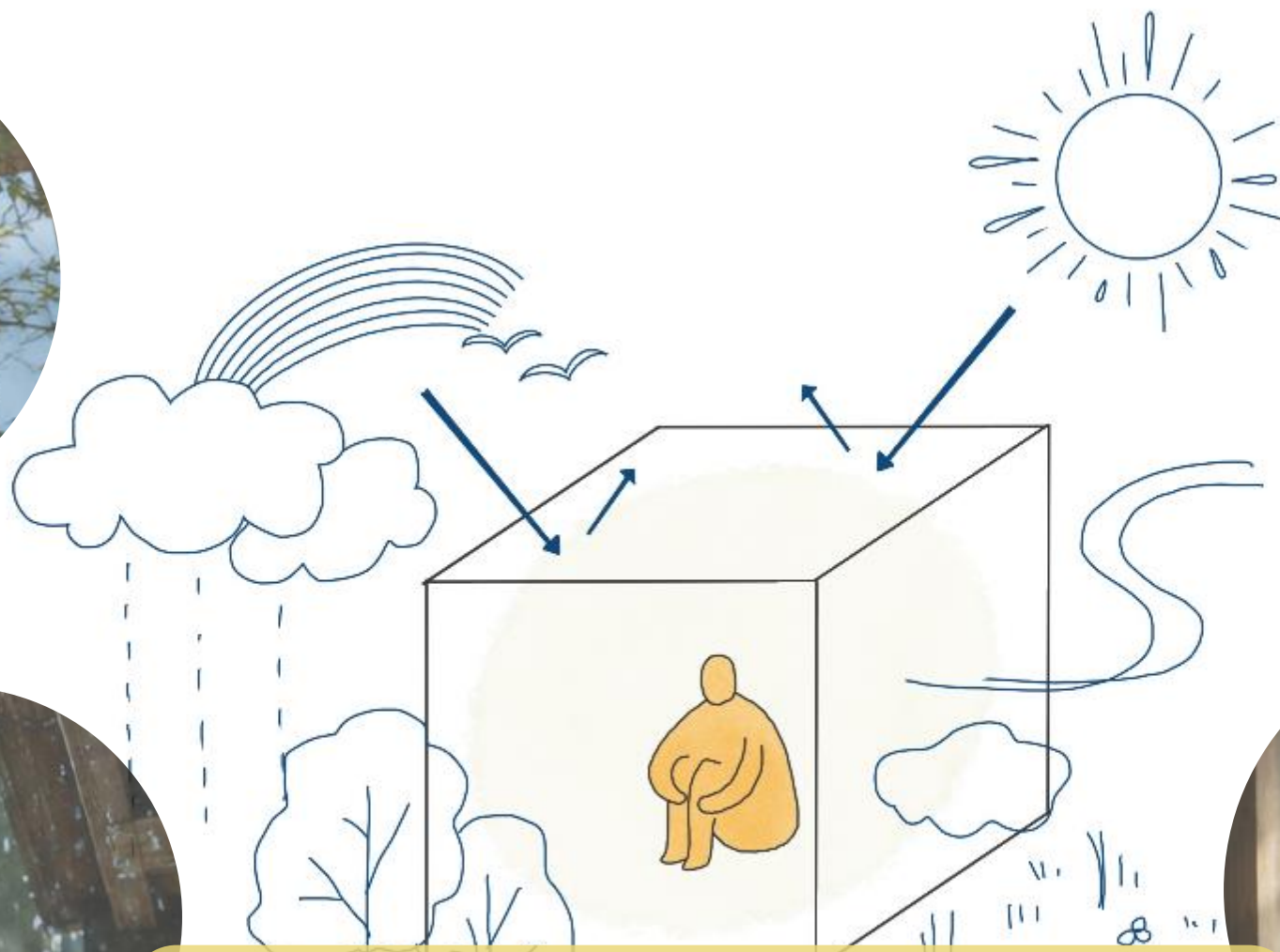
木が濡れて色が濃くなったり、光が反射したり。
いつもは見えないものが、
少しだけ見えるようになったりする。



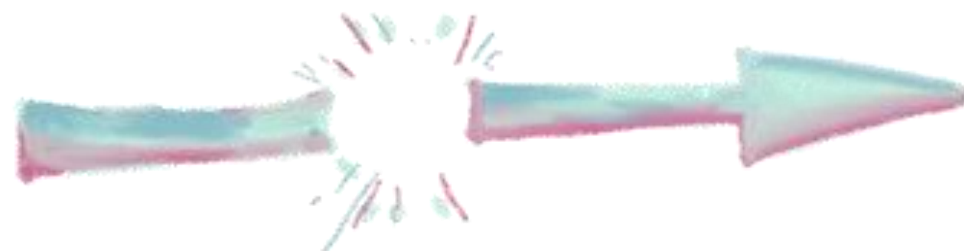
この「少し違う」ということを、暮らしの中につくれないだろうか。



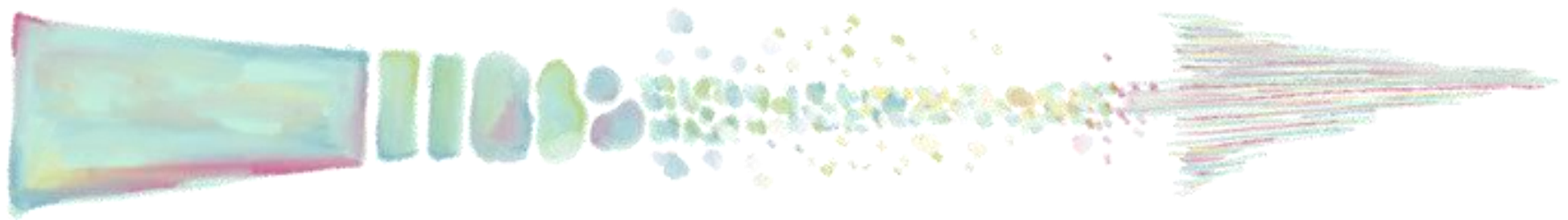
冷暖房や高気密、防音、防水、大きなガラスなどによって、
外部環境から切り離された「快適な箱」



変化に気づく感性が失われているだけでなく、
私たちは、そのこと自体にも気づいていないのではないか。

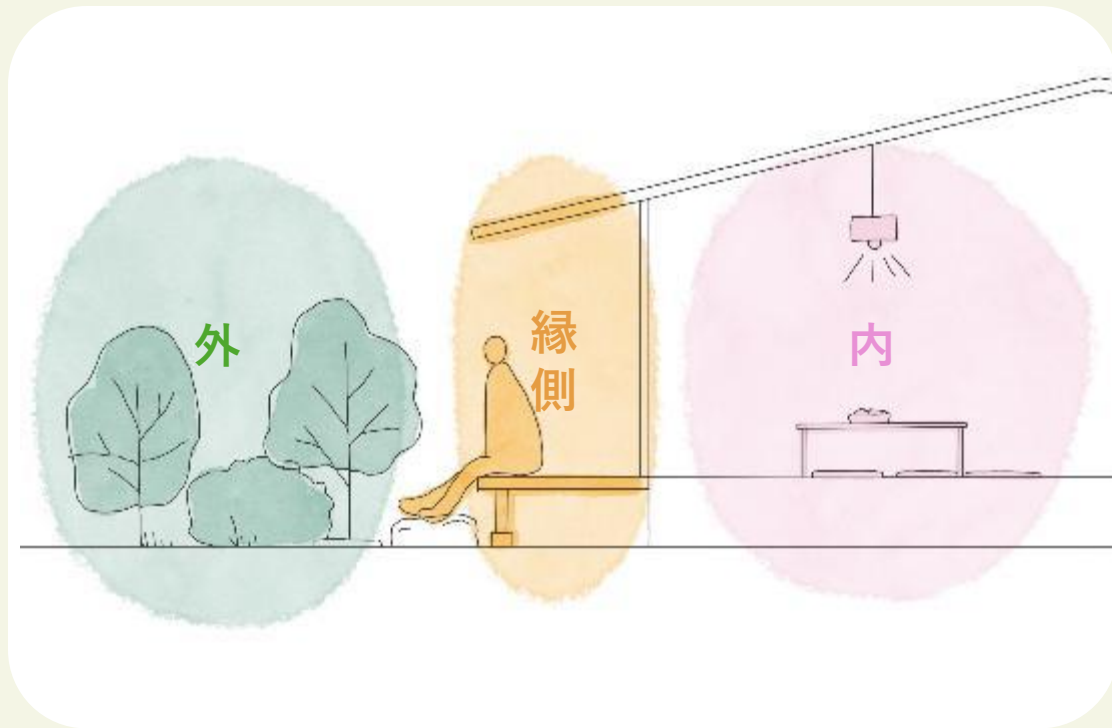


自然をそのまま受け入れるのでも、完全に遮断するのでもなく

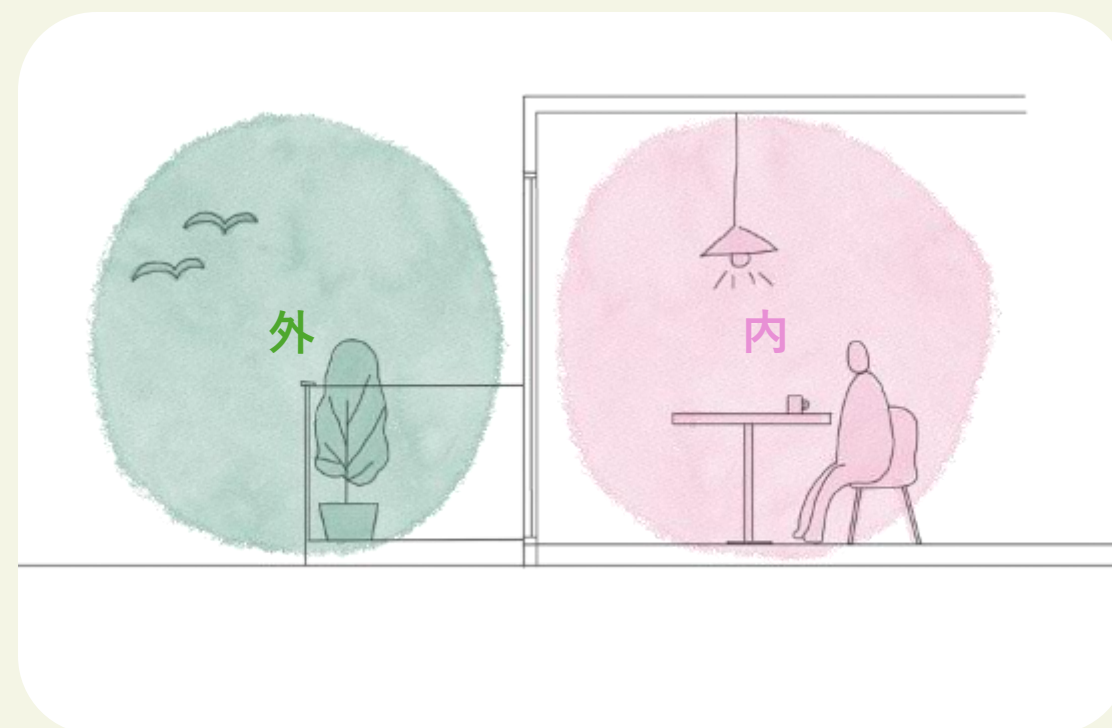


外の変化を受け止めながら、室内との距離を調整する場所をつくれないか

昔の住宅

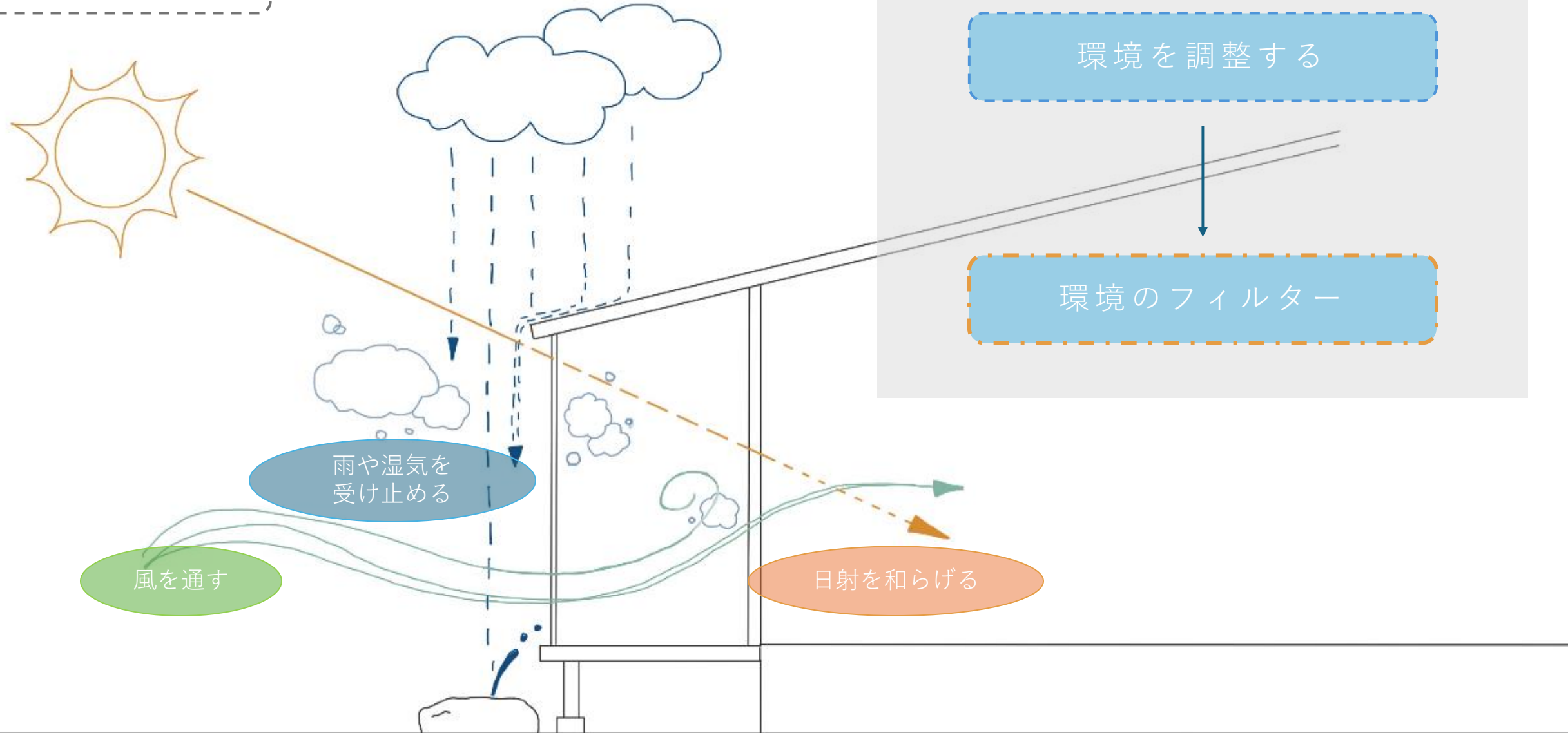


今の住宅

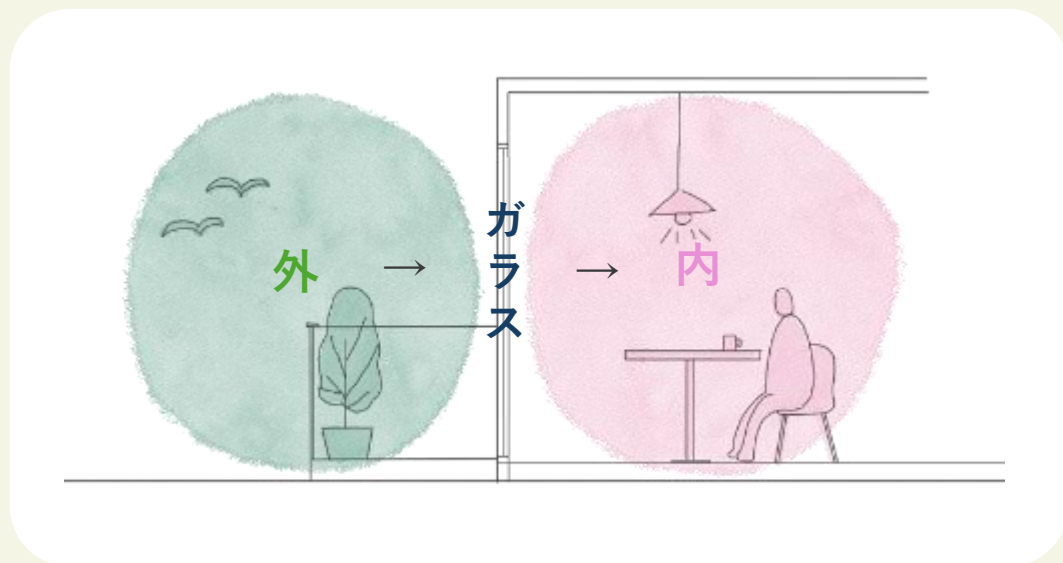


現代の住宅にもう一度、「外とのあいだ」をつくりたい

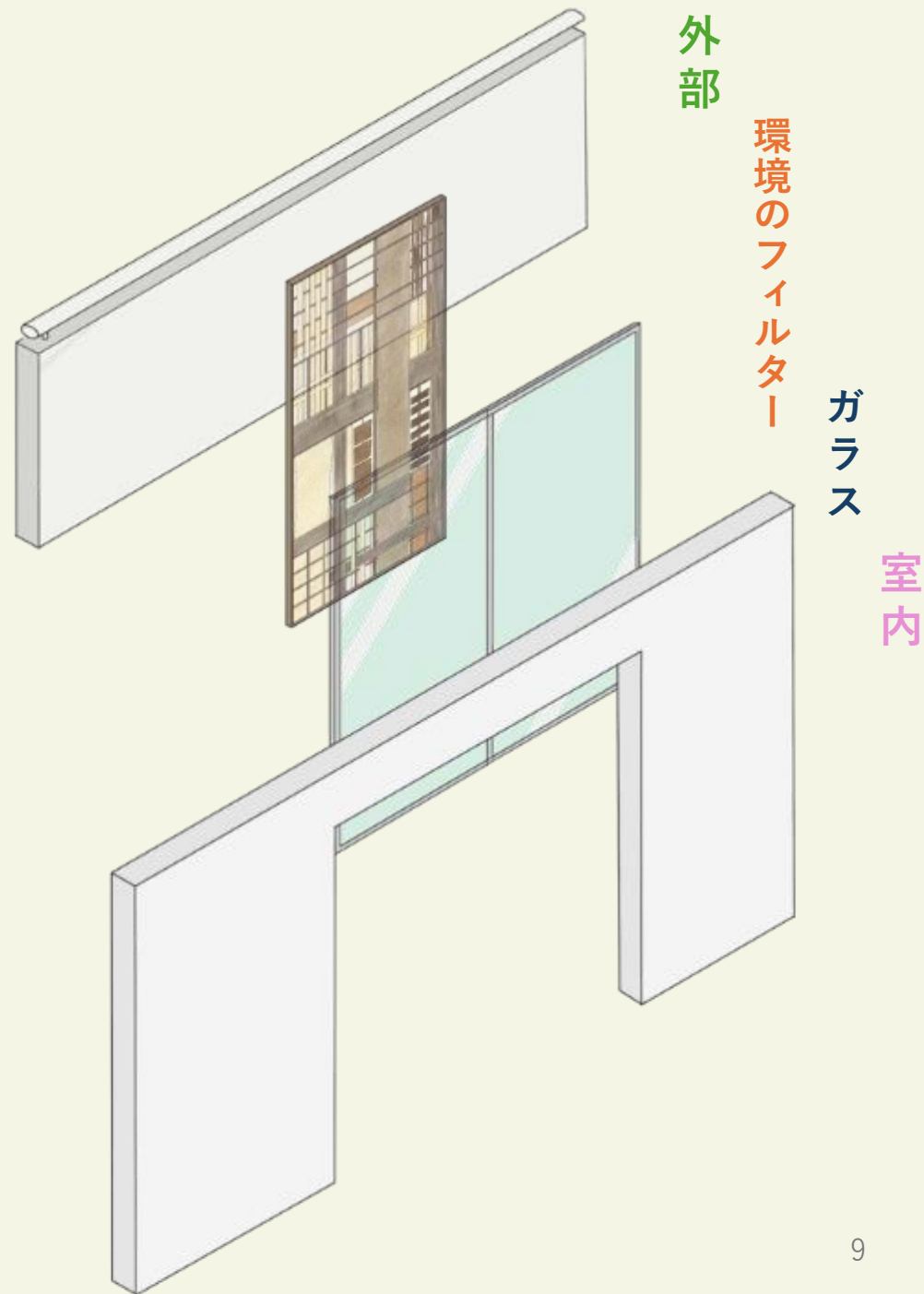
縁側のはたらき



現代のマンションの、外部 → ガラス → 室内 という
関係に、もう一つの層を入れる。



バルコニーをそのまま「縁側」に変えるのではなく、
住戸とバルコニーのあいだに、自然を受け止め、少し変化させて、
室内へ伝える層をつくる。



水

と
木
の
関
係
性

収縮する

光や影の見え方
が変わる

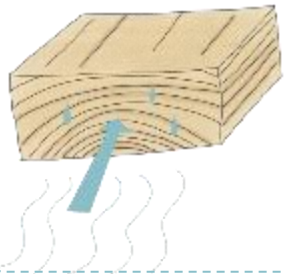
色が変わる

時間の経過が見える

自然との関わりによって起こる変化を、
一枚の板の中に織り込む

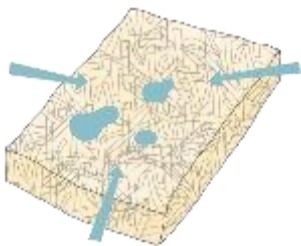
膨張する

匂いが変わる



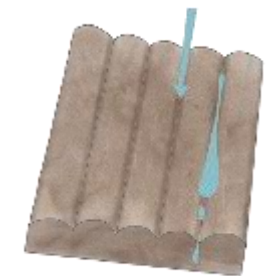
① 小口を見せる

繊維方向に対し垂直に切断した木口は、
水分が出入りしやすい。
木口を表面に向け、水分との接点をつくることで吸放湿を活かす。



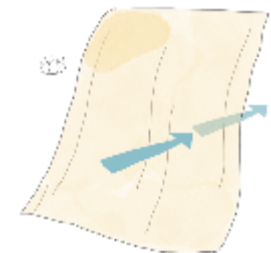
② 木を繊維状にする。

木材を細く削ることで、多くの空隙を持つ状態をつくる。
木と空気の接点を増やすことで
調湿・吸音・断熱へ



③ 溝や凹凸をつくる

表面に溝や凹凸を設けることで、
水が流れる・留まる・乾くという
動きをつくる。

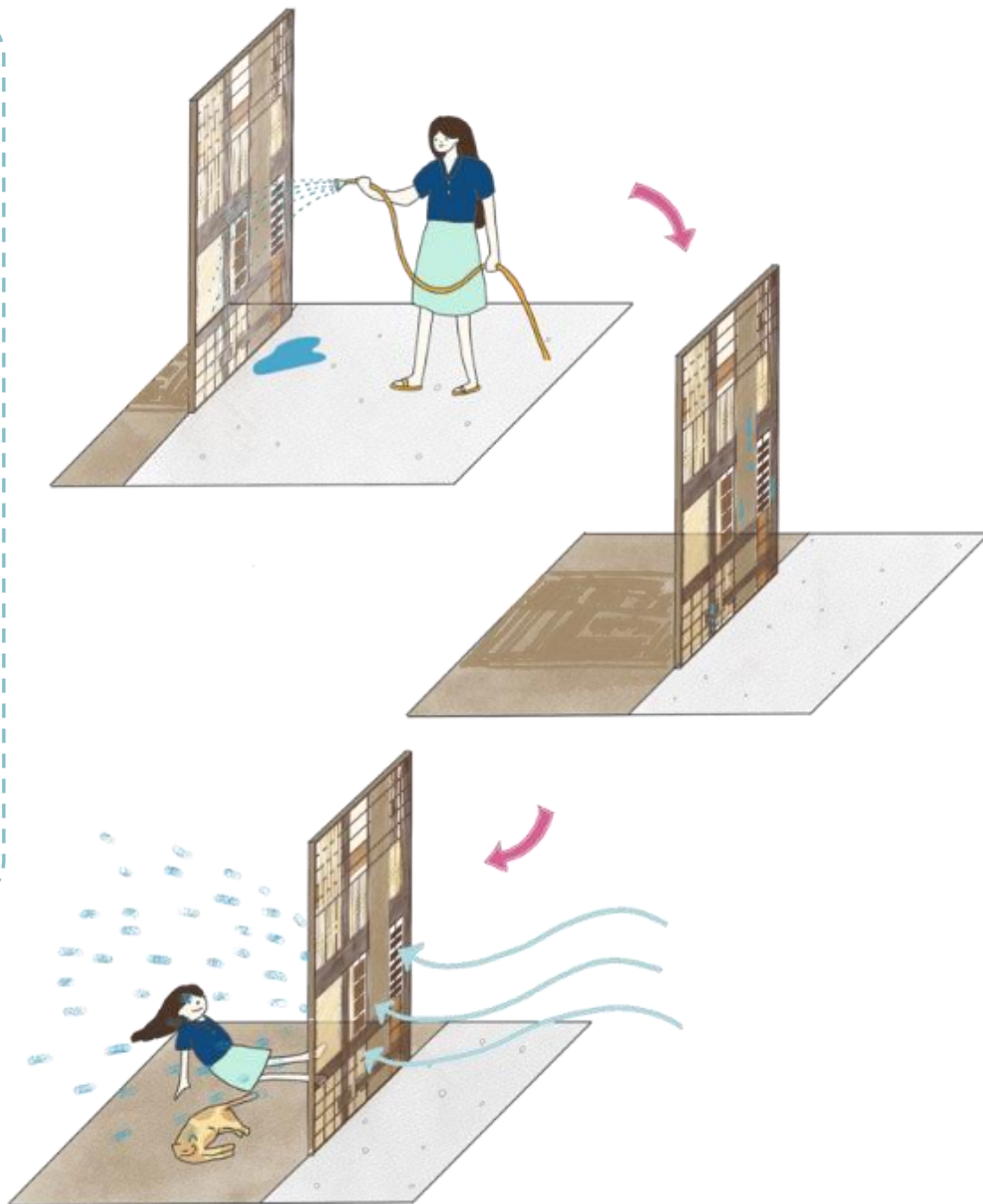


④ 木を薄く透かす

薄く加工し、光や視線が透ける状態をつくる。
乾くと木が光を遮り、奥の景色をぼんやりと隠す。濡れると透過性が上がる。



人が意図的に水を与えて、木の状態を変える。



雨だけでなく、湿気、散水によって木は水分を受け止め、濡れ、乾きながら状態を変える。

水によって木の色や質感、光や影の表情も変化する。

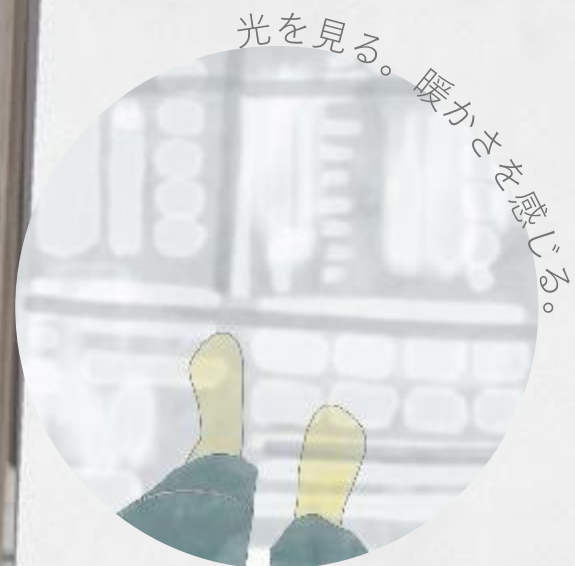


光が反射する

色が明るくなった

格子がはっきり見える

自然を「見る」だけではなく、
木と水を介して、少しだけ自然に意識を向ける。



自然を取り込むのではなく、
自然との距離を、少しだけ調整する。

その小さな調整から、これまでとは違う
住宅の風景が生まれるのではないかと考えました。

これが、私が提案する「水のあいだ」です。



ご清聴ありがとうございました。



